

ブランド化を目指す「新品目・新産地形成」プロジェクト

目的

地域特性・産地資源を生かした新品目の導入に向け、生産から販売までを総合的に支援するサポート体制を構築し、県内農業の生産力強化を図ることで、消費者・実需者ニーズに対応できる新たな産地を形成する。



現状及び課題

【候補品目の選定】

- 市場ニーズに合致した品目検討が行えていない

【技術面】

- 地域の環境に合わせた栽培技術が確立されていない

【人材面】

- 新規品目の栽培希望者は、県内に散在
- 県内に散在するため、情報収集にも限界がある

【施設面】

- 遊休農地、リタイアインフラの増加
- 栽培適地が見つけにくい
- 生産資材等の高騰

【販売面】

- ニーズの多様化、競争の激化

課題解決に向けて

ステップ1

【候補品目の選定】 有望品目：アボカド、イチジクなど

- 消費者ニーズの把握と栽培技術面での評価、経営面での評価など総合的に考慮し、産地化品目を検討

ステップ2

【技術面】

- 先進事例調査 研究新規課題化
- 新品目栽培技術の確立 園芸産地リノベーションの活用
品種の選定、施肥量、栽培方式の検討・実証
病虫害対策（農薬登録など）
低コスト・省力化栽培技術の改良
- 出荷アイテムによるコスト分析、経営評価を実施
- 栽培技術マニュアル化

【人材面】

- 推進体制の絞り込み
- 栽培希望者の把握、掘り起こし
- 栽培者の組織化支援
- 新品目栽培技術の研究情報等の提供

【施設面】

各種補助事業の活用

- リタイアインフラの把握
- 施設整備に向けた事業計画の作成支援

【販売面】

- 集出荷・流通体制の構築
集荷方法、規格、流通形態等の検討
- 販路の開拓・拡大
- 情報発信、PR
- 実需者の評価の把握

目指すべき姿

- 新次代ブランド品目の作出
- 新規品目の栽培を指向する生産者への支援体制を構築する
- 新規栽培を指向する生産者を強力に後押しすることで、優良な生産者を安定確保する

消費者・実需者ニーズに対応した、新たな産地が形成される

〔成果目標〕

『新産地形成』プロジェクト取組面積 1ha (R8)

『新産地形成』出荷金額 4,000万円 (R16)

【連携体制】

